

ネパール人との学び方

～ネパールの子どもたちを知るために～

特定非営利活動法人 SEWA
2022年9月

目次

第1章	この資料について	2
第2章	ネパール人児童どうしたのかな?	3
第3章	保護者と接する際の注意点.....	5
第4章	ネパールという国と文化	7
第5章	：“外国” に適応するには波がある	9
第6章	：日本語学習サイト	13

第1章 この資料について

この資料はネパール人児童を受け入れる学校の教員あるいは支援員が、ネパール人児童を取り巻く社会的・文化的な背景を理解することを通じて、ネパール人児童に対し適切なサポートを実施できるようになることを目的としています。

近年、日本で暮らすネパール人の数は急増しています。2012年は24,071人だったものが2021年には97,109人に達し、過去9年間で4.0倍に増えました¹。在日ネパール人の内、12.5%は技能ビザ、33.2%は家族滞在ビザを取得しています²。これは、まずお父さんが来日しインド料理屋でコックとして働き、その後、奥さんと子供をネパールから呼び寄せるケースが多いためです。これに伴い、学齢期(6歳～15歳)のネパール人児童数も2012年の991人から2020年には3,724人に達しています³。

日本の学校に通うネパール人児童も増えていきます。ネパール人児童の多くは、来日する際に日本語教育を受けておらず、日本語や日本社会に対する理解が乏しいことが多々あります。この為、学校の教育現場では「ネパール人児童とどのように接したらいいのかかわからない」との戸惑いの声も数多く聞かれるようになりました。「伝えたいことがなかなか伝わらない」、「保護者についてはコミュニケーションがとりづらい」、「給食について、食べたことがないものは食べない」あるいは「高学年になるにつれてプライドが高く、自己肯定感が高いのはよいが、例えば男女差などでこだわりが強い」など日本とネパールの社会や文化的な差異に起因する摩擦や(時には)課題も散見されます⁴。

このような状況を踏まえ、この資料ではネパール人児童に特有の行動や保護者との接する際の注意事項、あるいはこのような行動の社会的・文化的な背景に焦点を当てます。更に、ネパール人児童が日本に来た際、どのような過程を経て日本社会に適応するのかという異文化適応の視点も解説している他、日本語学習をする際に便利なサイトも紹介します。もちろん、ネパール人児童と一口にいっても様々な個性を持った児童がいます。この資料で記載した内容にあてはまらない児童もいるかもしれません。ただ「ネパール人児童はこのような行動をとる可能性が高い」という傾向をおさえておくことは、ネパール人児童をはじめて受け入れる学校の先生や支援員が、ひとりひとりのネパール人児童と向き合うために有用な情報だと考えます。この資料が学校の先生や支援員の方々の一助になれば幸いです。

¹ 法務省、在留外国人統計 (https://www.moj.go.jp/isa/policies/statistics/toukei_ichiran_touroku.html)

² 法務省、在留外国人統計 (https://www.moj.go.jp/isa/policies/statistics/toukei_ichiran_touroku.html)

³ 法務省、在留外国人統計 (https://www.moj.go.jp/isa/policies/statistics/toukei_ichiran_touroku.html)

⁴ 新宿区立O小学校(2022年1月)とT小学校(2022年2月)の教員にヒアリング。

第2章 ネパール人児童どうしたのかな？

この章では、初めて出会うネパール人児童の行動から、その背景を考えます。
以下の事例は日本の先生がネパール人児童の行動をみて、実際に困ったこと、不思議に思ったことです。

行動（を見た先生の反応）	行動の意味とその背景
首をかしげているけど、わからない（不満な）のかな？ 	ネパールでは「OK」あるいは「分かった」ときは、首を横に傾けます。「わからない」と考えているように見えますが、「わかりました」という返事です。否定のとき、首を横に振るのは日本と同じです。
おでこを怪我したのかな？	寺院にお参りしたときや祝い事するとき、おでこに赤いティカ（粉や赤い粉を混ぜたお米）をつける習慣があります。朝のお祈りの後、そのままつけて学校に来るかもしれません。
部屋の中なのに寒いのかな？	部屋の中では上着を脱ぐ日本人の習慣から見ると、暑いのに無理をしているように見えますが、1日中ジャケットを羽織っていても平気です。「暑ければ脱いでもいいですよ。ここに掛けてください。」と教えてください
給食に手をつけない、ご飯しか食べない、好き嫌が多いのかな？	ネパールでは給食がなく、日本の給食はメニューが豊富なので、ほとんど毎日初めての経験で、食べたことも見たこともない食材も多いです。 宗教的に食べられないものもあるので、確認も必要です。菜食主義者（ベジタリアン）の家庭は児童に魚・肉を食べさせない事も予想されます。 （また、ネパールの田舎では1日2食です。登校前に朝食をとったら、暗くなるまで食事を摂りません。お昼休みにカザというおやつのようなものを食べる場合もあります）段々と慣れて食べられるようになる児童がいる一方、全く受け付けない児童もいます。
なぜダンスに参加しないんだろう（男子）？サッカー嫌いなのかな（女子）？	女性の大統領も誕生しているネパールですが、高学年になるにつれて性別役割にこだわる児童も出てきます。その意識を強く持っている子は、「自分は男（女）だから女子（男子）のすることはしない」と主張する場合もあります。

10 月に入って急に何日も学校を休んだ。	秋に“ダサイン”と“ティハール”という大きなお祭りがあります。それぞれ数日間続くお祭りで、とくにダサインはネパール人にとって日本の盆や正月のようにふるさとで親戚や友人達と過ごす風習です。この時期に休暇を取ってネパールに帰るために、学校も休む可能性があります。祭りの開催日時は、毎年異なります。
図工の時間、見本をわたしたら、その見本通りに造ったり、描いたりする、(好きなように作っていいよっていったのに)	ネパールでは日本の「図工」「音楽」「体育」にあたる教科はあっても、学校によっては教員がいないので実際に授業ができないことがあります。彼らにとって初めての経験となる場合が多いです。
また、宿題やってこない。昨日、タブレットの設定を英語にしたから「大丈夫」って言っていたのに。	小1から「英語」の授業があり、英語が得意な児童は多いです。しかし、日本語未習で来日する児童がほとんどなので、日常会話ができたとしても、学習に使う日本語はあまりわからないと思われます。初心者の彼らに日本語で出される宿題や日本語のアプリはハードルが高く、やり方がわかりません。

ネパールでは学校教育は5歳から開始され、「1年生～8年生」が基礎教育、「9年生～12年生」が中等教育に分類され、8年生までが義務教育です。また、1年生から進級テストに合格しなければ次の学年に進級できず、留年する児童もたくさんいます。このため、日本のように学年と年齢は一致するとは限りません。

ネパールにおける初等教育での就学率は97%に達しており、ほとんどの児童はネパールで学校に通っていたと考えられます。またネパールでは近年、国語（ネパール語）以外はすべて英語で授業を行うコースもあり。児童の中には英語をよく理解する児童もいます。（ネパール語の読み書きが苦手な場合もある）傾向をまとめると以下の通りです。

小学校低学年	会話	ネパール語○ 英語△
	文字	ネパール語× 英語×
小学校高学年	会話	ネパール語○ 英語○
	文字	ネパール語△ 英語○
中学生	会話	ネパール語○ 英語◎
	文字	ネパール語○ 英語◎

第3章 保護者と接する際の注意点

ネパール人児童の保護者の日本語能力は人によって千差万別です。ネパールから来日してインド料理屋のコックとして働いている人は、オーナーやコック仲間とともに寝食をともにしている人も多くいます。この為、日本人や日本社会と接する機会に乏しく、来日して10年以上経っているにもかかわらず、日常程度の会話はできるけど、日本語の読み書きができない人もいます。一方、同じ環境でも積極的に日本社会とかかわりを持ち、日本語を上達させる人もいます。

さらに日本の学校の文化や習慣は、ネパールのそれとは大きく異なります。上述の言語能力の問題も加味して考えると、保護者と日本語で会話ができても「学級だより」など文字の読解は困難なことが予想されます。また上履き袋・音楽バックなどの持ち物1つ揃える事も難しい状況となりえます。この為、学校の教員や支援員から見た場合、ネパール人児童の保護者とのように接するのには、大きな課題となることがあります。

ここでは、ネパール人保護者の日本語能力に応じて、どのように対応をするとよいのかを考えます。

1. 会話は問題なく、読み書きもある程度できる保護者の場合

ネパール人保護者が日常会話に問題はなく、日本語の読み書きもできる場合は、ネパール人児童が学校からの手紙を普通に持ち帰る形で問題ありません。ただ、ネパールの学校ではあまり見られない行事（修学旅行、体育祭、引取り訓練等）や必需品（国語辞典、柔道着、水泳準備）が必要な場合、保護者がそれらに関する予備知識がないため、個別に説明する等の補助が必要となる場合があります。

事例1) 父親が日本のIT企業で働いており日本語が堪能なケース

父親が日本語での意思疎通に問題はなく、メールのやり取りも日本語でできる。この為、学校からの手紙も理解できていた。しかし、国語辞典を用意するように先生に言われた時は、どんな辞書がいいのか分からず支援員による補助的な説明が必要だった。また夏休みの宿題で分からないものがあった時も、支援員による補助が必要だった。高校入学時の書類は、自分自身でほぼ作成できたが、補助金などお金に関する書類については内容が難しかったようで支援員に質問があった。

2. 会話はできるが、読み書きが全くできない保護者の場合

ネパール人保護者が日本語の読み書きができない場合、学校からの手紙をどうするかを事前に考えておく必要があります。この場合の対応としては、重要な手紙（お金に関するもの、返事が必要なもの等）は別ファイルに入れて、必ず親に渡すように子どもに伝えることが必要です。または、もし支援員が存在する場合は、支援員が保護者と直接、連絡を取って補助することや、重要な手紙はグーグル翻訳でネパール語に訳して渡すなどの対応が求められます。

事例2) 父親がレストランの店長で、会話はできるが読み書きができないケース

父親は接客業で日本語の会話はできるが、読み書きは全くできなかった（日本語学校に通ったことはない、会話は本を読んで自分で覚えた）。そのため、学校からの重要な手紙は、支援員が親に直接、説明する必要があった。また夏休み前に、子どもが机の中に貯めていた手紙類を整理したところ、学級通信、学年通信、月間スケジュール、給食献立表、その他の1学期分の手紙が、机の中に突っ込まれた状態だった。子どもが手紙の種類を理解・識別できず（親に渡すべきかどうか等）、そのままになっていた。また、親は手紙を渡されたとしても読めない状況だった。

3. 会話と読み書きの両方ができない場合

保護者が日常会話をそれほどできない場合、日本語でのやり取りを補助できる人（親の兄弟、親戚）がいるかを確認して、その人に必要に応じて通訳してもらうようお願いする必要があります。また、保護者面談の時には支援員が通訳に入るなどの対応が求められます。

事例3) 父親がレストランの店員で、会話・読み書きの両方ができないケース

父親はレストランの厨房で働くスタッフで、日本語の会話があまりできなかった。彼の場合、義弟が同じ店の店長で日本語会話が可能であったため、学校とのやり取りは義弟が行っていた。学校側が配慮して、重要な手紙をグーグル翻訳でネパール語に訳したものを渡したことがあった。しかし、親に学校からの手紙を受け取って読む習慣が無かったため、読まずにそのままになっていたため支援員による補助が必要であった。

第4章 ネパールという国と文化

ネパールは南アジアに位置し、インドと中国にはさまれた国です。また世界最高峰のエベレストを有する多民族国家でもあります。ネパールの概要は以下の通りです。

面積	14.7万平方キロメートル（北海道の約1.8倍）
人口	2,919万2480人（2021年、ネパール中央統計局）
首都	カトマンズ
民族	パルバテ・ヒンドゥー、マガル、タルー、タマン、ネワール等
言語	ネパール語
宗教	ヒンドゥー教徒（81.3%）、仏教徒（9.0%）、イスラム教徒（4.4%）他

（出典）外務省ホームページ⁵

ネパールにはブッダ生誕の地であるルンビニがあります。一方、近年まで長い間国教とされてきたヒンドゥー教が圧倒的に多く信仰されています。ネパール人児童の多くも、ヒンドゥー教を信仰しています。ヒンドゥー教の特徴は以下の通りです。

多神教	ヒンドゥー教では数多くの神々がまつられています。この中でブラフマー・ヴィシュヌ・シヴァが三大神です。
カースト制度	社会身分制度で一生変わりません。結婚も同一カースト内でされることが多いです。
輪廻転生	現世で善い行いをすれば、よりよい来世（上位カースト）を招くことができると考えられています。
河川崇拜	沐浴の儀式が重要視されています。インドのガンジス川はシヴァ神の身体を伝って流れ出た聖水とされ、母なる川ガンジスとして河川崇拜の中心となっています。
食事制限	牛（瘤牛）は神様の乗り物なので食べません。
穢れ	ヒンドゥー教では穢れ（けがれ）に対する意識が強いです。例えば日常生活では以下のような事柄に対する配慮が必要となります。 <ul style="list-style-type: none">・人が口をつけたものは穢れがあるので食べない。・飲み物を共有する場合は口をつけない。・頭は神聖なものなので、子供であっても決して触らない。・左手は不浄な手とされているので、食事や、ものを渡す際は必ず右手を使う。

⁵ <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/nepal/data.html#section1>

また、ヒンドゥー教ではお祭りも重要視されます。主なお祭りは以下の通りです。

ホーリー	色祭りともよばれ毎年3月頃に実施されます。春の訪れを祝い、友人知人をはじめ、道行く人々と色粉を塗りあったり色水を掛け合ったりして祝います。
ダサイン	女神・ドゥルガ (Durga) が、水牛に姿を変えて現世に立ち出でた悪神・アスラ (Asura) を打ち負かした日を記念して、「善が悪に打ち勝った」ことを祝うお祭りです。毎年10月頃に実施されます。 また正装に着替えて親類や友人の家々をまわり、ティカを施してもらいます。このとき日本のお年玉のように、簡単な贈答品を一緒にもらうこともあります。
ティハール	光のお祭りともよばれ毎年11月頃に実施されます。5日間にわたって行われ、富と幸運の女神ラクシュミーを祭ります。家の繁栄を願い戸口にカラフルに美しい絵柄を描き、明かりを灯します。

第5章：“外国”に適応するには波がある

他国で暮らし始めた際、その社会になじむことを「異文化適応」といいます。「カルチャー・ショック」という言葉もあるように、異文化適応は直線的に進むわけではありません。一般的にいくつかの段階を経て異文化適応は進むと考えられており、これはネパール人児童も例外ではありません。このことを知っているのと、より効果的にネパール人児童と接することができるかとみられます。この為、この章では異文化適応プロセスについて焦点をあてます。

異文化適応は、次の4つの段階を経ると言われています。

【第1段階：ハネムーン期】

新しい環境への期待を胸に抱いているこの時期は、異文化社会で起こりうるネガティブな問題よりもポジティブな側面に着目する傾向があります。

【第2段階：カルチャー・ショック】

異文化をさらに実感していくうちに、以前は刺激的で楽しいと感じた日常生活にストレスを感じるようになります。日々、新しい文化や言葉を理解しようと努力していたことが精神的な疲労の原因とみられます。小さな問題が積み重なって大きな悩みとなり、結果として挫折や時には自信喪失へつながります。孤立感を感じ、表に出ることを避けるようになり、慣れ親しみのある人や食生活へよりどころを求めることもあります。

【第3段階：回復】

身の回りの日常的な事に慣れてきて、大きな問題ではなくなっています。まだ流暢に話せなくても、自分の考えや感情を伝えることができ、たいいていの問題には対応できるようになります。一方、不安定でもあり、ショック期と回復期は大なり小なり何度か繰り返します

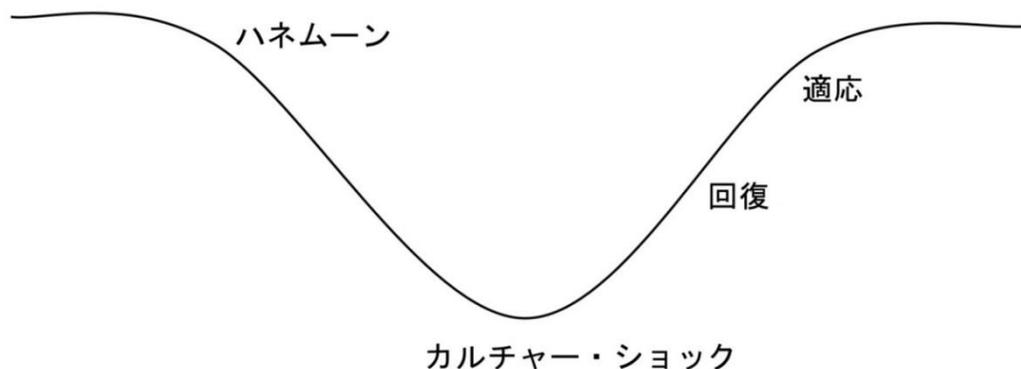
【第4段階：適応】

この時期までに、様々な状況でのやりとりで自分の成長を感じているはずです。語彙も増え、多くの日本文化を違う視点から受け入れることができ、日本人や日本語に親しみを覚えます。日本文化に溶け込み、日本の社会に所属しているという意識すら持っているかもしれません。

これらの段階が、どのタイミングで起こるかは個人差があります。また、すべての人に等しくあてはまるわけでもありません。ただ一般的には、カルチャー・ショックによるネ

ガティブな心理状態は、新しい環境に入って2ヶ月目から6ヶ月目の間に一番現れやすいといわれています。

Oberg's (1960) 異文化適応曲線 (U字曲線)



また、日本文化へ適応するとき問題になりやすいのは、日本とネパールではコミュニケーションのスタイルが異なるという点です。一般的に日本は「高コンテクスト文化」、ネパールは「低コンテクスト文化」と言われます⁶。高コンテクスト文化は「察する文化」「以心伝心」を重視するコミュニケーションスタイルです。一方、低コンテクスト文化は「伝える文化」であり「言葉で表現する・説明する」ことを重視します。

	高コンテクスト文化 (日本)	低コンテクスト文化 (ネパール)
好まれる表現	曖昧な表現	明確な表現
言葉の力	言葉ではなく相手の察する力に期待	言葉やジェスチャーなど自身の表現力で伝える
質問・異議	率直な質問や異議は躊躇	率直な質問や異議は躊躇しない
沈黙の意味	沈黙にいろいろな意味あり	沈黙はコミュニケーションの破綻
理解	理解は一般的な共通認識に基づく	理解は言葉に基づく
意思決定	感情的に意思決定	論理的に意思決定

これらを踏まえて、来日したネパール人児童の気持ちや周りの人たちの関わりについて考えてみます。ここでは、ネパール人児童が4月に入学したことを想定します。

⁶ ここで使われている「コンテクスト」とは、コミュニケーションの基盤である「言語・共通の知識・体験・価値観・ロジック・嗜好性」などのことで、アメリカの文化人類学者エドワード T.ホールが「ハイコンテクスト文化とローコンテクスト文化」の中で唱えたものです。

第1期 ハネムーン期（入学前準備段階～入学式）

ネパール人児童は新しい生活に期待と不安が入り交じった状態と考えられます。学用品をそろえたり、学校にあいさつに行ったりと、徐々に新しい生活の概要が見えてきます。保護者は、知人がいない状態で始まる場合が多いので、児童と比べるとかなり心情の数値は低くなっているものと思われます。この段階で、話を聞いてあげたり、入学準備をお手伝いしたりできる人がいると大きな助けになります。

第2期 カルチャーショック期（入学式から夏休み）

ネパール人児童も保護者も、自分の出身国と日本との学校生活の違いに直面します。ネパール人児童は言語や習慣、分刻みで進む学校生活にストレスを感じるかもしれません。ネパール人児童は低コンテクスト文化を有しているため、何かわからないことがあれば、他の児童や先生に尋ねたいと考えますが、日本語能力が低く、それもまなりません。この為、より強いストレスに直面することになります。この時期は、マンツーマンでサポートする職員が必要です。

そして、給食はかなり大変です。日本の高校を卒業したあるネパール人女性は、「最初は食べられるものが無かった。」「何を食ったら良いのか分からなかった。」と話していました。日本の味に不安を感じるのはもちろんですが、材料が何か、宗教上食べてはいけないのではないかなどの理由もあります。材料を説明し、食べても大丈夫なことを確認しながら、少しずつ慣れさせていく必要があります。最初は昼食を持参することも効果的な対策かもしれません。

保護者は家で学校の様子を児童から聞き、不安になるでしょう。そして、学校からの様々な情報が日本語のお便りで来ること、なかなか状況を学校に伝えられないことにストレスを感じると思われます。下校時に保護者に来てもらい、週に1・2回直接話をする機会がもてたら良いと思います。

このようなカルチャーショック期が1ヶ月、長いと1学期いっぱい続くと思います。この時期をどのようにして乗り切るか、短い期間で済ませるかが適応へのポイントになります。

第3期 回復期（夏休み以降）

カルチャーショック期を乗り越えると、ネパール人児童は学校生活に慣れてきます。日常的な事はもう大きな問題ではなくなっています。日本語をまだ流暢に話せる状態ではありませんが、自分の考えや感情を少しずつ伝えることができるようになってきます。しかし、学校には様々な行事があります。春に運動会を行う地域もあれば、校外学習などのイベントもあります。（水泳授業も要注意です。）常に新しい出来事を体験しながら学んでいきます。

保護者も児童と同じように徐々に日本の学校生活に慣れていきます。しかし、児童が

日々学んで成長していることと比べて、保護者の日本語やコミュニケーションはあまり上達しない家庭が多く見られます。カルチャーショック期と同じような保護者対応は続ける必要がありますし、可能であれば、保護者に近くの日本語教室などを紹介するのもよいでしょう。

第6章：日本語学習サイト

ネパール人児童は日本語が出来ない状態で来日し学校に通い始めることが多いです。この為、まず日本語能力を伸ばす必要に迫られます。学校生活で先生や友達などを使う日本語を勉強するには、以下のようなサイトがあります。インターネット上に掲載されている学習教材であり、ネットにつながることでさえできれば、日本のどこからでも無料でアクセスすることが可能です。

(1) かすたねっと (文部科学省)	
外国人児童向けの動画として「はじめまして！今日からともだち」と「おしえて！日本の小学校」が掲載されています。ネパール語もあり、学校に入りたてのネパール人児童が学校生活について学ぶことができます。	
(2) 外国人児童・生徒用日本語指導テキスト「たのしいがっこう」(東京都教育委員会)	
学校で使う日本語をネパール語で解説しています。PDFの資料をダウンロードすることが可能です。	
(3) 「生活者としての外国人」のための日本語学習サイト (文化庁)	
日本の生活におけるコミュニケーションに必要な日本語を学ぶことができます。動画とともに日本とアルファベットのスク립トも出てきます。	
(4) いろどり、生活の日本語 (国際交流基金)	
学校生活や日常生活で使う日本語を学ぶ。PDF資料とそれに対応した音声データも掲載されています。	

(5) にほんごワーク (外国人児童生徒向け無料学習プリントサイト)	
文字の練習や文法の習得に向けたプリントをダウンロードすることができます。	
(6) NHK World Japan (日本語学習サイト)	
「しごとのにほんご」と題されたサイトで、ビジネスで使われる日本語を学習することができます。	

また以下の団体では「学級だより」などを多言語に翻訳する支援を行っています。

(1) NPO 法人シニアボランティア経験を活かす会	
国際協力機構 (JICA) のシニア海外ボランティアの経験者により設立された団体です。「外国籍保護者のための学校連絡文書の翻訳」事業も展開しており、学校から配布される書類を10か国に翻訳することが可能です。	
(2) 公益財団法人よかトピア記念国際交流財団	
福岡市内の外国人が対象で「保育園、学校や区役所などからの手紙や配布物の簡単な翻訳」の他、「日常生活での困りごとの相談」にもものってくれる。当該外国人から申し込みをする必要がある。	

この他、以下のサイトでは日本で生活していく中で必要な情報がネパール語で提供しています。ネパール人保護者と接する際に参考にしてください。

(1) 出入国管理庁	
<p>出入国管理庁のウェブサイトは多言語で表示されており、ネパール語でも閲覧することができます。</p>	
(2) 外国人生活支援ポータルサイト (出入国管理庁)	
<p>出入国管理庁は外国人が日本で生活していくうえで必要な情報を多言語で提供しており、この中にはネパール語も含まれます。</p>	
(3) 防災ガイドブック	
<p>災害にあった時に必要な情報が取得できるサイトがネパール語でまとめられています。</p>	
(4) 多言語指さしボード	
<p>避難所に避難した際に活用可能な「指さし会話帳」。ネパール語も含まれています。</p>	
(5) 避難者登録カード (ネパール語)	
<p>また、避難者登録カードのネパール語は以下のサイトからダウンロードできます。</p>	

(6) 食材の絵文字カード	
避難所で「食べられないもの」を伝える食材の絵文字カードです。	
(7) NHK World Japan のサイト (ヒンディー語)	
NHK の海外放送のヒンディー語サイトです。ネパール人の中にはヒンディー語が出来る人も多く、日本のニュースを知るのに効果的です。	
(8) NHK World Japan (やさしい日本語でニュースを表記)	
「やさしい日本語で”今週の日本”」と題されたサイトで、やさしい日本語で日本のニュースが伝えられています。	
(9) NHK (NEWS WEB EASY やさしい日本語で書いたニュース)	
NHK のニュースサイトで日々のニュースがやさしい日本語で書かれています。	

ネパール人との学び方～ネパールの子どもたちを知るために～

2022年9月10日

初版発行

発行元

特定非営利活動法人 SEWA

執筆者

太田智之（平成17年度3次隊、経済・市場調査）

（カッコ内は青年海外協力
隊でネパールで活動してい
た時の隊次と職種）

田中文絵（2017年度4次隊、環境教育）

麻生ひろみ（昭和56年度2次隊、理数科教師）

久保千春（平成8年度3次隊、村落開発普及員）

川村昌広（平成5年度3次隊、理科教師）

西田千紘（平成25年度1次隊、村落開発普及員）

関康範（平成17年度1次隊、小学校教育）

連絡先

sewanpo2021@gmail.com